

研究・調査報告書

報告書番号	担当
140	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Effects of smoking and drinking habits on the incidence of periodontal disease and tooth loss among Japanese males: a 4-yr longitudinal study.</p> <p>日本人男性を対象とした歯周病・歯喪失の罹患率に対する喫煙・飲酒習慣の影響:4年間の経時研究</p>	
執筆者	
Okamoto Y, Tsuboi S, Suzuki S, Nakagaki H, Ogura Y, Maeda K, Tokudome S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Periodontal Res. 2006 Dec;41(6):560-6.	
キーワード	
アルコール消費、経時研究、歯周病、喫煙、歯喪失	
要旨	
<p>目的： われわれは喫煙・飲酒消費習慣と歯周病・歯喪失のリスクとの関連を検討した。</p> <p>対象と方法： 対象は1332人の日本人の男性で30-59歳、ベースライン時の検査で歯周病でなく、4年後の2回目検査に来た人とした。歯周病は、歯周ポケットの深さ(4mm以上)のclinical probingを基本としたthe community periodontal index scoreを用いて診断された。喫煙とアルコール消費パターンは自記式調査票により評価された。</p> <p>結果： 各年齢で量反応関係が喫煙量と歯周病との間に観察された。年齢・アルコールで調整したオッズ比と95%信頼区間は1日で消費する喫煙本数1-19本で1.51(0.95-2.22)、20本で1.58(1.13-2.22)、21本以上で2.81(1.96-4.03)であり、線形傾向が有意であった。一部50-59歳の層を除き同様の関連が喫煙と歯喪失で見られた。調整オッズ比は各々1.26(0.60-2.64)、2.01(1.21-2.32)、2.06(1.23-3.48)であった。喫煙と歯喪失についても有意な傾向が見られた。以前喫煙していた者は非喫煙者と比較すると有意な違いが見られなかった。アルコール消費と歯喪失については30-39歳で有意な傾向が見られたが、アルコール消費と歯周病には関連が見いだされなかった。</p> <p>結論： 喫煙は歯周病・歯喪失の独立した危険因子であった。アルコール消費は若年層における歯喪失の危険因子に限られ、歯周病とは関連が見られなかった。歯周病・歯喪失を予防するためには、保健従事者が禁煙を促し、喫煙を始めさせない必要がある。</p>	